

記入例 3 (第 7 1 号 自動式車両洗淨施設)

様式第六 (第八條關係)

特定施設設置届出書

〇〇年 〇〇月 〇〇日

提出日を記入してください。

函館市公営企業管理者企業局長 様

住所 { 法人にあつては、
主たる事務所の
所在地 } 函館市〇〇町〇〇番〇〇号

申請者 氏名 { 法人にあつては、
名称および代表
者の氏名 } 株式会社〇〇〇〇
代表取締役 〇〇 〇〇

電話番号 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

下水道法第 1 2 条の 3 第 1 項の規定により、特定施設の設置について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	株式会社〇〇〇〇	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	函館市〇〇町 〇〇番〇〇号	※受理年月日	年 月 日
特定施設の 種類	第 7 1 号 自動式車両洗淨施設	※施設番号	
△特定施設の 構造	別紙 1 のとおり。	※審査結果	
△特定施設の 使用の方法	別紙 2 のとおり。	※備考	特定施設の号番号および施設名を記入してください。
△汚水の処理の方法	別紙 3 のとおり。		
△下水の量 及び水質	別紙 4 のとおり。		
△用水及び 排水の系統	別紙 5 のとおり。		

備考

- △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
- ※印の欄には、記載しないこと。
- 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A 4 とすること。

別紙 1

特定施設の構造

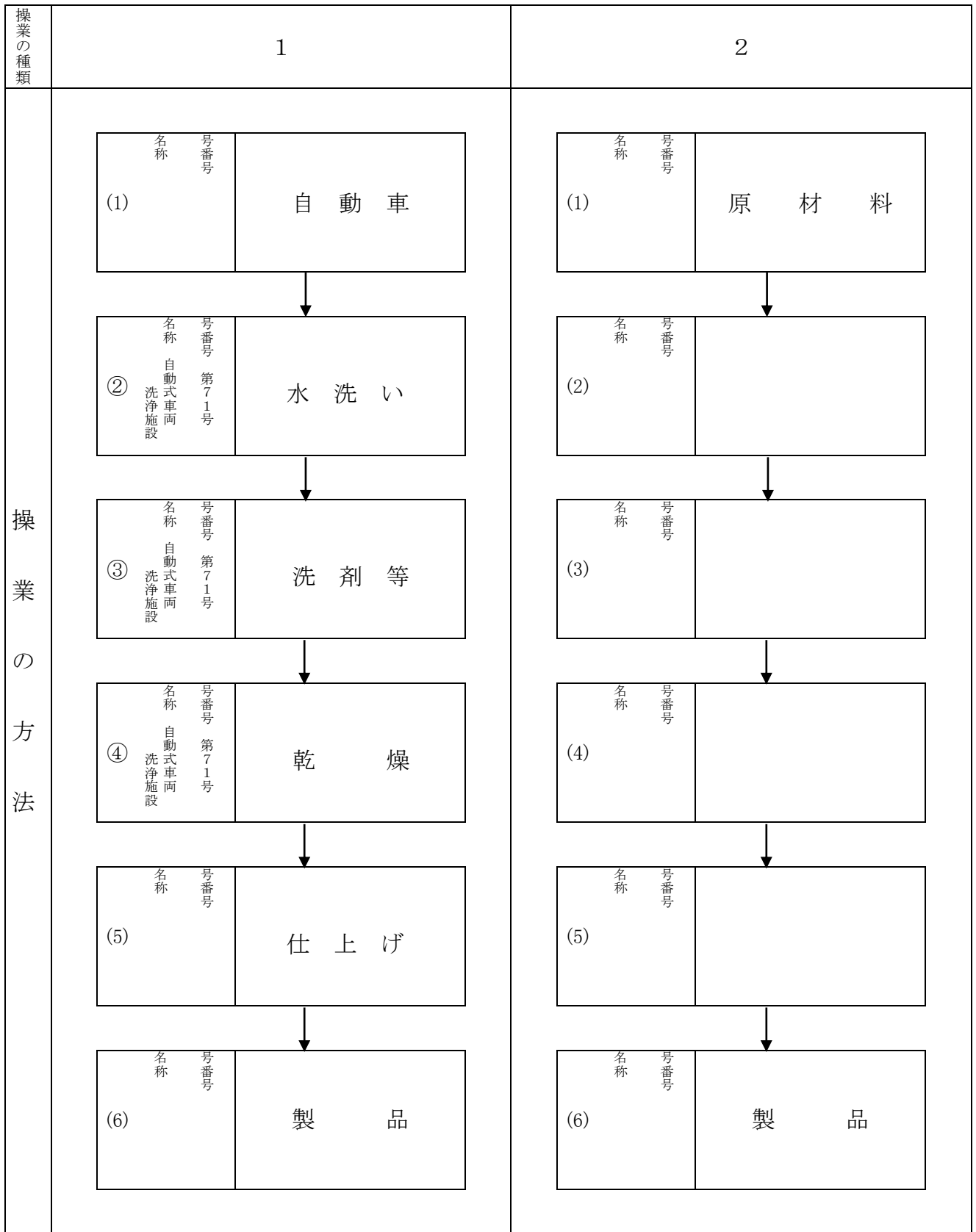
特定施設	No. 1	No.
1 号 番 号	第71号 自動式車両洗淨施設	特定施設の号番号および施設名を記入してください。
2 名 称	門型洗車機	特定施設の施設名。
3 メーカ ・ 型 式	(例) △△株式会社 ○○○○ ○○-123□□	
4 台 数	○台	
5 材 質	○○○製	
6 主 要 寸 法 (m)	L○○×W○○×H○○	長さ×幅×高さ。 単位はm。
7 能 力 (kg/日)	(例) 洗車処理能力 10台/時	特定施設の能力を記入。 時間当たりの処理量および 使用水量等。
8 設 置 図	別紙のとおり	別紙のとおり
9 工 事 着 手 予 定 年 月 日	年 月 日	年 月 日
10 工 事 完 成 予 定 年 月 日	年 月 日	年 月 日
11 使 用 開 始 予 定 年 月 日	年 月 日	年 月 日
12 備 考		

別紙 2

特定施設の使用の方法

特定施設	N o . 1		N o .													
1 号 番 号	第 7 1 号 自動式車両洗淨施設		別紙 1 1 号番号と同じ 番号が入ります。													
2 名 称	門型洗車機		別紙 1 2 名称と同じ。													
3 使用 方法	自動車の洗淨		特定施設の使用 方法。													
4 操 業 工 程 図	別紙 2 の 1 の と お り		別紙 2 の 1 の と お り													
5 1 日 当 た り の 使 用 時 間	〇〇時間 (〇〇時〇〇分~〇〇時〇〇分)		特定施設の使用時間。													
6 1 日 当 た り の 原 材 料 等 の 使 用 量	別紙 2 の 2 の と お り		別紙 2 の 2 の と お り													
7 汚 水 の 水 量 (m ³ / 日)	通 常	最 大	通 常	最 大												
	(例) 1.12	(例) 1.34	通常の 1.2 倍の数値となります。													
8 汚 水 の 水 質 (m g / L)	BOD		S S		pH		油 分		BOD		S S					
	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
	170	200	170	200	7.0	8.0	5.0	6.0	使用する栓数, 特定施設の使用水量または汚水処理施設の処理水量から算出し記入して下さい。							
9 備 考	(例) 洗車機 100L/台×10台/日×0.001=1.0m ³ /日 水栓 1 栓 12L/分×1分/台×10台/日=0.12m ³ /日 汚水の水量 1.0+0.12=1.12 m ³ /日															

操業工程図



備考 操業の方法欄の番号のうち、特定施設を使用する工程の番号を○で囲み、その特定施設の名称および号番号を記入すること。

代表的な原材料と概算の使用量を記入してください。

別紙 2 の 2

1 日当たりの原材料等（消耗資材を含む。）の使用量

原材料等の種類	使用量(k g / 日)	用途	備考
1 シャンプー		洗車用	
2 ワックス		洗車用	
3 コーティング剤		洗車用	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

別紙 3

汚水の処理の方法

1	処理方式	浮上分離方式 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (例) 油水分離槽 実容量 600Lの場合 許容流入流量 $600L \times 0.75 = 450 \text{ L/分}$ 処理能力 $450 \text{ L/分} = 648 \text{ m}^3/\text{日}$ $(450L/\text{分} \times 60 \times 24 \times 0.001 = 648\text{m}^3/\text{日})$ </div>								
2	能力 ($\text{m}^3/\text{日}$)	$450 \text{ (L/分)} = 648 \text{ (m}^3/\text{日)}$								
3	構造	別紙図面のとおり								
4	汚水の処理 の系統図	別紙図面のとおり								
5	1日当たりの 薬品類の使用量 (凝集剤, 中和剤 等)									
6	汚水の 水質 (mg/L)	項目	B O D		S S		p H		油分	
			通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
		処理前	170	200	170	200	7.0	8.0	5.0	6.0
	処理後	120	150	120	150	7.0	8.0	3.5	4.0	
7	処理水の水量 ($\text{m}^3/\text{日}$)	通常	別紙2 7 汚水の水量と同じ数値になります。 (例) 1.12				最大	(例) 1.34		
8	発生汚泥等 の処理方法	汚泥等の量 ($\text{m}^3/\text{月}$)	オイル阻集量と土砂堆積量の合計量。備考の選定計算から算出。 $0.030\text{m}^3/\text{月}$ $(3.0\text{L}/\text{月} + 27.0\text{L}/\text{月} = 30.0\text{L}/\text{月} = 0.030\text{m}^3/\text{月})$							
		処理の方法	委託処理							
9	設置図	別紙図面のとおり								
10	工事着手 予定年月日	年 月 日								
11	工事完成 予定年月日	・許容流入流量 450 L/分 ・オイル阻集量 $\text{許容流入流量} \times 0.047 = 450 \times 0.047 \approx 21.2 \text{ L}$ ・土砂たい積量 $\text{許容流入流量} \times 0.268 = 450 \times 0.268 \approx 121 \text{ L}$								
12	使用開始 予定年月日	年 月 日								
13	備考	(例) ・流入量(洗車機+水栓) $(29.2+12)\text{L}/\text{分} \times 1\text{台} \times 10.0(\text{安全係数}) = 412\text{L}/\text{分} < 450\text{L}/\text{分}$ ・オイル阻集量 $(10\text{g}/\text{台} \times 10\text{台}/\text{日} \times 30\text{日}/\text{月})/1000 = 3.0\text{L}/\text{月} < 21.2\text{L}$ ・土砂たい積量 $(0.09\text{L}/\text{台} \times 10\text{台}/\text{日} \times 30\text{日}/\text{月}) = 27.0\text{L}/\text{月} < 121\text{L}$								

公共ますにおける事業場排水（油水分離槽排水）と生活排水（トイレ、手洗い等）を合計した下水の量となります。

(例) 事業場排水 1.12m^3 + 生活排水 $0.5\text{m}^3 = 1.62\text{m}^3$

通常の1.2倍の数値となります。
通常 $1.62\text{m}^3 \times 1.2 = 1.94\text{m}^3$

公共ます2箇所
に汚水を排除する
場合記入して下さい。

別紙 4

下水の量及び水質

排出口	No. 1		No. 最大	
	通常	最大	通常	最大
下水の量 (m ³ /日)	(例) 1.62	(例) 1.94		
1 温度	度	度	度	度
2 アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素含有量				
3 水素イオン濃度 (pH)	水素指数 7.0	水素指数 8.0	水素指数	水素指数
4 生物化学的酸素要求量(BOD)	120	150		
5 浮遊物質 (SS)	120	150		
6 ノルマルヘキサン抽出物質含有量	3.5	4.0		
(1) 鉱油類含有量				
(2) 動植物油脂類含有量				
7 窒素含有量				
8 燐含有量				
9 汚濁消費量				
10 カドミウム及びその化合物				
11 シアン化合物				
12 有機燐化合物				
13 鉛及びその化合物				
14 六価クロム化合物				
15 砒素及びその化合物				
16 水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物				
17 アルキル水銀化合物				
18 ポリ塩化ビフェニル				
19 トリクロロエチレン				
20 テトラクロロエチレン				
21 ジクロロメタン				
22 四塩化炭素				
23 1, 2-ジクロロエタン				
24 1, 1-ジクロロエチレン				
25 シス-1, 2-ジクロロエチレン				
26 1, 1, 1-トリクロロエタン				
27 1, 1, 2-トリクロロエタン				
28 1, 3-ジクロロプロペン				
29 チウラム				
30 シマジン				
31 チオベンカルブ				
32 ベンゼン				
33 セレン及びその化合物				
34 ほう素及びその化合物				
35 ふっ素及びその化合物				
36 1, 4-ジオキサン				
37 フェノール類				
38 銅及びその化合物				
39 亜鉛及びその化合物				
40 鉄及びその化合物(溶解性)				
41 マンガン及びその化合物(溶解性)				
42 クロム及びその化合物				
43 ダイオキシン類	pg/L	pg/L	pg/L	pg/L
摘要	水質については、生活排水による汚濁負荷量を除いた数値とする。			

備考

- この表に掲げる項目の単位は、温度、水素イオン濃度 (pH) およびダイオキシン類以外の項目については、mg/Lとする。
- 「摘要」の欄は、下水の量又は水質の推定の根拠等を記載すること。

記入してください。

別紙 5

事業場全体から公共ます 1 箇所に汚水を排除する
 場合です。

別紙 4 下水の量と同じ数値となります。

用水及び排水の系統

1	用水及び排水の系統図	別紙図面のとおりに							
	排出口	用 水							
		水道水 (m^3 /日)		地下水 (m^3 /日)		その他() (m^3 /日)		合 計 (m^3 /日)	
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
2	No. 1	(例) 1.62	(例) 1.94					(例) 1.62	(例) 1.94
	No.								
	No.								
	No.								
	No.								
	No.								
	No.								
	合 計	(例) 1.62	(例) 1.94					(例) 1.62	(例) 1.94